

新春文芸 入選作品発表

「新春文芸」にたくさん作品を応募いただきありがとうございました。審査の結果、次の作品が入選となりました。（入選者などの敬称は省略。）なお、すべての応募作品を載せた作品一覧表は各地区公民館でご覧いただけます。また、市ホームページにも掲載しています。

短歌

「新春雑詠」 阿部 昌彦・選

●特選

ひたすらに平和を願う初日影戦火くぐりし同胞あれば 坂井 キヨ

【選評】 昨年は戦後七十年、作品の希少価値をしっかりと捉えて共有したい。

●佳作

火床燃え鈍音冴えるあかとき仕事はじめの奉剣を打つ 倉松 錦一

【選評】 火床・鈍音・奉剣の用語にあかとき「仕事はじめ」の厳肅が漂う。

棟梁は下げ振り降ろす初春の地球の芯にまつすぐ届けと 萩原 智子

【選評】 棟梁の誇張がユーモアであり、威勢のよさが初春の空に響きわたる。

六十年夫は建具師生きがひにひとすじの道今年も幸あれ 木ノ瀬 厚子

【選評】 夫の仕事の長い歲月への誇り、結句に素朴な妻の愛が添えられた。

初明り差す境内に嬰兒の写真撮り合ふカップルの声 長浜 武士

【選評】 若いカップルの声に新春の微笑ましき、信心の深さも伝わってくる。

俳句

「新春雑詠」 齋藤 謙歩・選

●特選

袖ひろげまた袖ひろげ春着の子 石栗 嘉一



【選評】 お正月の春着の娘さん、両袖を開いたり閉じたり全身で喜ぶ。

●佳作

初詣山門古りし千社札

磯部 道雄

【選評】 新年の初詣でに、山門には多くの千社札が。平穩を祈る。

結納の水引艶やか今朝の春

河村 トキ子

【選評】 あら玉の新年から結納とはお目出たい。幸せに包まれた一家だ。

家系図のしんがり集う松の内

前川 有三

【選評】 一族の家系図を画けば、殿に位置する若人が集う、一家益々発展だ。

東に鶯が巢仰ぐ初田打

鍋倉 静雄

【選評】 新年早々の田打ち、鶯ヶ巢から御来迎、心新たまる夜明けだ。

川柳

「新春雑詠」 川村 雄一・選

●特選

お年玉景気浮揚と弾ませる

菅原 誠二

【選評】 景気浮揚の政策に便乗するかのよう弾むお年玉。孫たちの喜ぶ顔が見える。

●佳作

ピッカピカの孫の賀状がお年玉

平山 守

【選評】 孫からの年賀状。これが何よりの宝物である。

役どころ百態のサル賀状占め

木村 慎一

【選評】 今年は申年。さまざまな猿の百態を賀状で見る楽しさ。

初日の出東から出りや大事なし

加藤 太助

【選評】 天変地異があり過ぎるこの頃。これくらいの度胸がないとやって行けない世の中である。

年毎に行事薄らぐ若世帯

貝沼 ユキ

【選評】 昔からのしきたりや行事が時代とともに薄れて行くさびしさ。

●問い合わせ 中央公民館（マナボーテ村上内） ☎ 53・2446